

いばらき教育月間 ～生きた学びを～

校長 根本愛子

茨城県では、教育に対する関心と理解をいっそう深める機会として、毎年11月1日を「いばらき教育の日」、11月を「いばらき教育月間」としています。このシンボルマークは、親子が仲良く本を読み、学習している様子を表現しています。円を多用して構成されたデザインには「地域全体が輪のように一緒になって教育のことを考えよう」という意味が込められているそうです。



本校でも、教育月間である11月から12月にかけて、様々な出前授業や体験活動等を多く設定し、生徒の非認知能力の育成に努めています。非認知能力とは、やる気、忍耐力、協調性、自制心など、数値だけでは計り知れない人の心や社会性に関係する力であり、これからの変化の激しい社会のなかで必要不可欠な力です。

キャリア教育の第一人者の先生を中心に、県内各地の起業家や企業人の方に行っていただいたキャリア教育の出前授業では、20年先、30年先を見据えて、予測不可能な社会を生き抜く力、AIやロボットに負けない力をもつ人となるために大切なことは何かを学びました。生徒たちからは、「勉強しないなんてもったいないという言葉が新鮮だった」「自分が夏休みに体験した職業が、20年後、30年後に残っているのかを初めて考えた」「どんな場面でもどんな仕事でも、今学んでいることとつながっている。関係のない教科はないことがわかった」等の感想が多くありました。「テニスは、数学の図形と速さの求め方、理科の風力と力の捉え方、保健体育のバランス感覚が求められる」等、講師の先生の例えがわかりやすく、将来を見据えて、今の学びを大切にしようという思いを強くもった生徒たちでした。

今後とも、いばらき教育の日のシンボルマークがもつ意味のように、学校、家庭、地域が輪のように一緒になって、これからの社会を生き抜ける生徒を育成していけますよう、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

今月の関中ワード

○自分の未来を創れるのは、あなた自身しかない！！

誰でもない、自分の手で未来をつかみます。自分に限界をつくらず、成長し続けよう。明るい未来は無限大です。